FREE
ご自由に お持ちください。

No.855
2024 December
12

岐阜県の森林・林業

森林（もり）のたより

News of the forest

“みどりの奨励賞”受賞

― 北方小学校みどりの少年団 ―

「全国緑の少年団活動発表大会（10月19日）」で
「みどりの奨励賞」受賞

第47回全国育樹祭式典（10月20日ー福井県）で行われた「緑の贈呈」

●詳細は5ページをご覧ください

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（1月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等	場　所 申込（問合せ）先／TEL
令和7年 1月18日（土）	**岐阜県 みどりの少年団 活動発表大会**	●みどりの少年団が日頃の活動について発表します。 またモリノスでの交流行事も計画しています。 ●時間：10：00～15：00（予定） ●参加の申し込みを受け付けています。	岐阜県立森林文化アカデミー 森の情報センター、モリノス （美濃市曽代８８） 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL:058-273-7577 FAX:058-273-7547
1月18日（土）	**ぎふ木遊館木育プログラム（木のねんどで消臭ボールづくり／木のねんどで写真立てをつくろう）**	●木粉を使った木のねんどで、ヒノキの香りを楽しみながら工作をします。 ●消臭ボールづくり 時間：①10：00～10：30 ②11：00～11：30 参加費：入館料のみ ●写真立てをつくろう 時間：13：30～14：30 参加費：１作品300円 ●講師：ぎふの木ネット協議会 ●申込：開催日２日前の正午まで	ぎふ木遊館（岐阜市学園町２－３３） ぎふ木遊館 TEL:058-215-1515 ※申込はぎふ木遊館 HP から

目次 Contens

イベントカレンダー（一般向け）……2
花粉発生源対策事業の紹介……3
「第８回全国木のまちサミット」を開催しました……4
「北方小学校みどりの少年団」が全国緑の少年団活動発表大会で発表しました……5
「ぎふ林業甲子園２０２４」開催！……6
県産材利用に関する協定締結式及び表彰式等を開催……7
わが組合の頑張るフレッシャーズ……8
県による森林環境譲与税の活用について（令和５年度）……8
２０２５年農林業センサスにご協力ください……9
森林の土地を取得したときは市町村への届出が必要です！……9
山の歳時記 232 木馬（きんま）Ⅱ……10
森林と人を活かす知恵 143 『木表』と『木裏』の心がけ……11
ぎふ木遊館通信……12
ｍｏｒｉｎｏｓ プログラム紹介!!……13
シリーズ：ぎふ木育全県展開(2)……14
木の香るぎふの施設 140 岐阜県立岐阜北高等学校図書館……15
シリーズ：『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”(8)……16
研究コーナー
ヒノキ枝虫材を用いた接着重ね材の試作と強度性能……17
普及コーナー
可茂地域における普及活動について……18
スマート林業通信(44)……19
国有林の現場から 98 ヘリコプター集材とミソスリ材……20
林業者向けお知らせ……21
市況……22

表紙●詳細は5ページをご覧ください

花粉発生源対策事業の紹介

～スギ人工林の伐採・植替えの促進～

国は昨年度、花粉症対策の一つとして、花粉の発生源であるスギ人工林の面積を令和15年度までに全国で約2割減少させる目標を掲げました。

県においても花粉発生源対策を進めていますので、本稿では、スギ人工林の伐採・植替えに関係する補助事業等を中心に紹介します。

国の花粉発生源対策の方針

国は、花粉発生源対策を効果的・集中的に実施するため、「スギ人工林伐採重点区域（以下「重点区域」という。）」を設定し、全国のスギ人工林伐採年間面積を現状の約5万ヘクタールから10年後には約7万ヘクタールまで増加させるとともに、花粉の少ない苗木による植替え等を進めることを目標として掲げています。

スギ人工林伐採重点区域について

国は昨年度、スギ花粉発生源対策推進方針を改正し、全国のスギ人工林の約2割が対象となるよう、各都道府県が人口の多い都市部周辺において重点区域を設定することとしました。

これを受けて県では、中京大都市圏内の市町を主として県内28市町で、合計3万7千ヘクタール余のスギ人工林を重点区域に設定しました。

重点区域に設定されたスギ人工林では、次に紹介する補助事業等を活用することができます。

伐採・植替えにかかる補助事業等

【林相転換特別対策（特定スギ人工林）】

自助努力では伐採・植替えが進まない森林について、事業主体が市町および森林所有者との協定に基づき、スギ人工林の伐採と花粉の少ない苗木等への植替えを連続して行う場合、伐採から植替えまでの作業に係る経費に対し補助します。

【花粉の少ない森林への転換促進事業】

本事業は、森林所有者が、森林組合等の林業経営体への委託により、スギ人工林の伐採・植替えを行う場合に、協力金が支払われるものです。

なお、本事業は、国が（一社）日本森林技術協会を通じて実施しています。詳細については、同協会のウェブサイトをご覧ください。

スギ人工林の伐採・植替えにかかる補助事業等の概要

事業名	林相転換特別対策（特定スギ人工林）	花粉の少ない森林への転換促進事業
事業主体	市町村、森林組合等	林業経営体等
参考 補助額等	• 伐採、地拵え、植栽、鳥獣害防止施設等整備に係る経費に対する補助 • 参考補助額　約200万円/ha※ ※条件により補助額は大きく変わります。	• 森林所有者に働きかけを行い森林経営計画を策定した林業経営体等に対し、12万円/ha • 上記の森林において、植替えに係る伐採を行った森林所有者に対し、最大35万円/ha
要件の 概要等	• スギ人工林伐採重点区域内であること • 森林組合等が実施する場合、自ら所有する森林でないこと • 市町および森林所有者と協定締結すること • 植栽は、花粉の少ない苗木等を2,000本/ha以下で植栽すること • 1伐区あたりの上限面積は概ね2.5ha以下 など	• スギ人工林伐採重点区域内であること • 主伐に係る森林経営計画が未策定の森林で主伐に係る森林経営計画を策定すること • 花粉の少ない苗木等の植栽を計画すること • 森林整備地域活動支援交付金との併用不可 • 条件が合致した場合、林相転換特別対策（特定スギ人工林）との併用可 など
問合せ先	各農林事務所林業課　Webサイト：https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2280.html	（一社）日本森林技術協会 Webサイト：https://www.kafuntaisaku.com

「第8回全国木のまちサミット」を開催しました

10月16日、東白川村で「全国木のまちサミット」を開催し、全国から自治体や林業関係者など約２００名の参加がありました。

このサミットは森林の保全や山村地域の活性化のため、木材の利用拡大に取り組む自治体等が一堂に会し、課題の共有や解決方策を見出すことなどを目的に会員（27自治体）が持ち回りで開催しており、今回が８回目となります。

冒頭、主催者を代表して実行委員長の今井東白川村長が歓迎の言葉を述べると共に、「中山間地域（川上）の苦しい現状の中、森林や木材の新たな活用方法と未来に向けた活動を紹介し、今後の進むべき方向を探りたい。」と今回のサミット開催の狙いについて説明しました。

その後、県立森林文化アカデミーの涌井史郎学長により、「山林・木材の未来」と題した特別講演をいただき、「地球環境の悪化を招く気候変動を抑制するには、様々な公益機能を発揮する山を健全な状態に守る必要があり、その経費の捻出には木材生産だけでなく、森林吸収クレジットなど公益機能を価値化する必要がある。さらに大手ＩＴ企業では森林や自然豊かな場所に事務所を構えるバイオフィリックデザインの流れが生まれており、山村の新しい地域づくりのモデルとなる。」など大変示唆に富んだお話をいただき午前の部を終了しました。

午後の部は、最初にＮＰＯ法人日本森林管理協議会（日本におけるＦＳＣ認証制度の運営組織）の西原智昭事務局長から森林認証制度の講演をいただき、植林ではほぼ再生しないアフリカ・コンゴ共和国の自然環境の保全に、環境との調和を図る「ＦＳＣ認証制度」が極めて有効となった経緯を紹介のうえ、日本の事務局としも一層の制度普及と認証材の利用拡大に取り組む旨の発言がありました。

次に、「山で生きる若者たちが語る〝届け俺たちの声〟」と題して林業・製材業や住宅建築に関わる若者ら９名によるパネルディスカッションが行われました。体力勝負の林業を今後も続けられるか、林業従事者が前向きに楽しく働くにはどうすればよいかなど、時には会場の参加者も巻き込んで熱心な討議が行われ、最後に「川上と川中・川下の連携が生産性や付加価値の向上に繋がること」、「山の役割を今一度見直し、木材生産と保全する山を区分すること」の必要性を関係者が再認識し、すべての行事を終了しました。

なお、次回は人工林率が６割を超え、「四万十ヒノキ」のブランド化を進める、高知県四万十市で開催されます。

実行委員会事務局（東白川村）

北方小学校みどりの少年団

が全国緑の少年団活動発表大会で発表しました

「全国緑の少年団活動発表大会」が10月19日に福井県福井市の福井県県民ホール（AOSSA）において秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして開催されました。今年度の「みどりの奨励賞」に選ばれた「北方小学校みどりの少年団」(揖斐川町)を代表して角田 覇奈(つのだ はな)さん、寺井 蒼旺(てらい あお)さん、所 俐央（ところ りお）さんが活動発表を行いました。

今回の活動発表では「つなぐ」をキーワードにこれまで、毎年先輩から後輩につなぎながら、苗木の育成から緑化までの長期的な活動を継続的に行っていること、間伐や枝打ち体験を通じて、元気な森を育てるためには人の手を入れる必要があること、さらに山に降った雨がどうなるのか装置を使った実験や、揖斐川にいる生き物の観察を通じて学んだ森の働きや生態について発表しました。

発表の最後には、将来も今と変わらないきれいな水があるように、豊かな山々に囲まれた揖斐川町であるように、こうした活動を伝統として次の世代へつなげていく思いを会場の皆さんに発信しました。

未来へつなぐ活動に積極的に取り組む熱意と責任感あふれる姿に会場からは大きな拍手をいただきました。

翌２０日の第４７回全国育樹祭式典行事の「緑の贈呈」では、福井県のみどりの少年団が育てたウスズミザクラなどの苗木が贈られ、井川 葉奈（いかわ はな）さん、寺澤 隼人（てらざわ はやと）さんが受領しました。

大会を振り返り、北方小学校みどりの少年団は、大変貴重な体験ができたことと思います。これからも緑や自然、地域を愛する人へ健やかに成長されるとともに、みどりの少年団活動の伝統を引き継いでいってくれることを願っています。

団旗の入場受渡

発表の様子

北方小学校みどりの少年団
後列左から　中島校長、道家先生
前列左から　寺澤さん、寺井さん、所さん、角田さん、井川さん

表彰

表彰（中央が北方小学校）

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会　専務理事　田中 敏隆】

「ぎふ林業甲子園2024」開催！

岐阜県内で林業を学ぶ高校2年生が、林業の知識や技術を学校対抗で競い合う「ぎふ林業甲子園2024」が県の補助事業により県立森林文化アカデミーで開催されました。

本大会は、他校の生徒との交流や授業では学べない林業の仕事を体験しながら、将来、林業にかかわる職業や進学先の選択として考えるきっかけづくりとして開催されています。

一般社団法人岐阜県森林公社「森のジョブステーションぎふ」と「県立森林文化アカデミー」が共催し、今回で2回目の開催となり、参加校は4校（岐阜農林高校、郡上高校、加茂農林高校、飛騨高山高校）、15人が参加しました。

ぎふ森ジョブアンバサダーの「さばいどる　かほなん」さんも参加し、大会を盛り上げました。

さばいどる　かほなん

林業競技種目

【①獣害対策競技】

ツリーシェルターの設置の速さを競う。

【②選木競技】

1プロット（10m×10m）の中で、自分の家の柱材として育てる木と間伐する木を選木する。

選木競技

【③伐採木判定競技】

伐採する木の「樹高」、「林齢」、「市場価格」を予想する。

【④樹種判別競技】

板材の色や木目、葉っぱの形、利用用途などから15種類の樹種を判別する。

樹種判別競技

【⑤木材重量予想競技】

ヒノキの柱材の重量を体感で計測し予想する。

【⑥空間・価格予想競技】

サンプルのフローリング材を基に、部屋の広さを計測して、その部屋に敷き詰めるフローリング材の購入価格を予想する。

【⑦木材強度予想競技】

木材のたわみを測定する実験を通じて、3種類の板のたわみの大きさの順番を予想する。

【⑧薪割り競技】

丸太の割れやすい目を読み、くさびをハンマーで叩き、何回で割れるかを競う。

※各競技には、それぞれ専門のスタッフが解説付きでサポートしました。

【昼食交流会】

昼食は、参加者全員で交流タイムとして他校やアカデミーの学生と交流を図りました。

大会の結果

優勝　岐阜農林高等学校
2位　加茂農林高等学校
同率　郡上高等学校
4位　飛騨高山高等学校

大会の振り返り

どの参加者も最初は、緊張のせいか硬い表情でしたが、競技が進むごとにチームメイトやスタッフなどと相談する者も増え、次第に緊張もほぐれている様子でした。また、最後の薪割り競技では、チームメイトを大声で必死に応援する姿など、白熱した大会となりました。

今後も、林業甲子園を継続し、広めていくことで、より多くの高校生が林業に興味を持ち就業のきっかけとなるよう支援していきたいと思います。

集合写真

【森林経営課　担い手企画係】

県産材利用に関する協定締結式及び表彰式等を開催

令和6年11月2日(土)にOKBふれあい会館大会議室において県産材利用に関する協定締結式及び表彰式等を開催しました。

○第3回「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定」締結式

県と連携して県産材の利用促進及びPRに取り組んでいただく6事業者と協定を締結しました。

協定締結者名(主な本社等所在地)

・名鉄グループ(名古屋市)
・飛騨五木グループ(高山市)
・(株)丸泰(岐阜市)
・(株)ワタケン・ホーム(美濃加茂市)
・(株)テクノプレニードヒダ(川辺町)
・(株)ウッドフレンズ(名古屋市)

岐阜県木の国・山の国
県産材利用促進協定
協定締結者　集合写真

○「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進表彰」表彰式

県産材の利用促進に顕著な功績があった者(木造建築部門12者、木質化部門10者、木製品部門4者)に表彰状を授与しました。

受賞者

【木造建築部門】

〈最優秀賞〉
・みんなの森ぎふメディアコスモス(施主:岐阜市、設計:(株)伊東豊雄建築設計事務所、施工:戸田・大日本・市川・雛屋特定JV)

〈優秀賞〉
・おひさまの微笑み(施主:(株)ハートコンサルタント、設計:(株)ダイナ建築設計、施工:(株)新東建設)
・美濃保育園子育て支援棟(施主:(福)愛育会、設計:象設計集団、施工:澤崎建設(株))
・中津川市立福岡小学校(施主:中津川市、設計:(株)石本建築事務所、施工:中島・岡山特定JV、ミリオン電工(株)、丸山木材ホールディングス(株))

【木質化部門】

〈最優秀賞〉
・高山市立新宮小学校(施主:高山市、設計:(有)小林建築設計事務所、施工:堀口・林特定JV)

〈優秀賞〉
・岐阜市立長良小学校(施主:岐阜市、設計:大建・大建met設計共同体、施工:市川・雛屋・土本特定JV)
・いわのだこどもの森(施主:(福)堂角舎、設計:(株)山岡哲哉建築設計事務所、施工:(株)髙垣組)

〈特別賞〉
・西美濃農業協同組合　※施主のみ

【木製品部門】

〈最優秀賞〉
・HINOCO(ヒノコ)(柏木工(株))

〈優秀賞〉
・木製防音壁「安ら木」(篠田(株))
・桧バレルサウナ(爽快森のサウナ)(株)トーホー)

〈特別賞〉
・もりのタンバリン((株)郡上割り箸kinali)

○「匠の国・岐阜県伝統建築家」認定証授与式

伝統的な木造建築について、特に卓越した技能・知識・経験を有し、後継者の育成に多大なる実績のある建築大工技能士8名に認定証を授与しました。

被認定者

森幹治(岐阜市)、大野生二(岐阜市)、所久好(本巣市)、恩田吉行(山県市)、森下恵介(郡上市)、市村健(郡上市)、安藤栄剛(多治見市)、山下健一(高山市)(敬称略)

匠の国・岐阜県伝統建築家
被認定者　集合写真

○「岐阜県木質バイオマス利用優良事例」表彰式

効果的に木質バイオマスを利用し、森林資源の持続的な地域内循環に貢献している施設、団体のうち、他の模範となる5者に木製楯を授与しました。

受賞者

【施設部門】

優秀賞　大垣市上石津地域事務所
優秀賞　明宝温泉 湯星館
優秀賞　美輝の里 スパー美輝

【県民協働部門】

最優秀賞　木の駅上石津実行委員会
優秀賞　明宝山里研究会

岐阜県木質バイオマス利用優良事例表彰
受賞者　集合写真

○「ふるさとぎふ振興寄付金」への寄附に対する感謝状贈呈式

「森林・環境保全に向けた包括協定」を県と締結し、協定に基づく事業を実施され「ふるさとぎふ振興寄付金」へ621,366円を寄附された3企業に知事感謝状を贈呈しました。

感謝状受領者

・(株)バローホールディングス
・サントリー(株)
・サントリーフーズ(株)

「ふるさとぎふ振興寄付金」
への寄附に対する
感謝状受領者　集合写真

わが組合の頑張るフレッシャーズ

【揖斐郡森林組合（揖斐川町）】

森下諒平さん　2024年入社（滋賀県大津市出身）
林　岳宏さん　2024年入社（揖斐郡池田町出身）

（左）林さん　（中）古野組合長（右）森下さん

【林業就業のきっかけ】

（森下） 揖斐の山奥に移住してきて、ハローワークに登録したことがきっかけです。

（林） 昔から山に触れ合う機会があった事と、ニュースやインターネットで林業の事を知ったことがきっかけです。

【就業しての感想】

（森下） 私は木工をします。木材関連すべての始まりをつくる林業に携われて感慨深いです。

（林） 樹種によって植えてある場所が違ったり、環境によって木の生え方が変わったり、面白い発見があります。

【自信が付いてきた仕事】

（森下） チェンソーの刃を研ぐこと。刃の研ぎ具合で、切れる、切れないの感覚が少しずつ分かってきました。

（林） 最初に比べてチェンソーの使い方や伐採、集材のコツが掴めてきました。

【山づくりへの思い】

（森下） 木工や渓流釣りなど木や山にお世話になっています。次の世代にも楽しんでもらえる山づくりをしたいです。

（林） 薄暗かった林が間伐をして明るくなった姿を見て感動しました。このような林を多くつくっていきたいです。

【今後のお二人の抱負】

まだまだ経験不足ですので、早く上達して色々な技術や知識を身につけていきたいです。林地残材の有効利用など、森林資源の活用についても考えていきたいです。

【代表者からのエール】

自然と共生する林業。仲間と助け合い、挑戦を楽しんで成長してください。あなたの手で未来の森を育てましょう！

【林業を志す人へのメッセージ】

新たに林業を志す皆さん、自然と共に成長し、持続可能な社会を共に築きましょう。仲間と共に学び、未来を支える森を一緒に育てよう！

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-4011
「森のジョブステーションぎふ」まで

県による森林環境譲与税の活用について（令和5年度）

令和５年度は、国から岐阜県へ約2億円（県内の市町村には合計で約14億7千万円）の森林環境譲与税が配分されました。県では、森林整備等を実施する市町村の支援などに活用したので、その主な内容を紹介します。

事　業　内　容	決算額（千円）
●市町村の体制等の支援 •地域森林管理支援センターの運営による市町村林務行政の支援 •市町村林務行政の支援や民有林経営への助言等を行う人材である岐阜県地域森林監理士の養成や活用支援 •森林情報の精度向上及び岐阜県森林クラウドシステムによる森林情報の提供 •針広混交林化施業指針の策定に向けた調査・研究	85,615
●森林整備の支援 •ライフラインの確保に向けた立木の事前伐採の支援	27,648
●人材育成・担い手対策の支援 •林業就業者の確保、育成に向け、「森のジョブステーションぎふ」において就業相談会や安全講習等の受講支援を実施 •東京圏以外からのUIJターン促進のための移住支援金の交付	21,132
●木材利用の推進 •非住宅建築物の木造化に携わる建築士の養成や、公共施設の木造化に関する研修会の開催	3,310
●普及啓発 •ぎふ木育の拠点施設である「森林総合教育センター（morinos）」の運営及び様々な森林教育プログラムの実施	32,536
合　　計	170,241

岐阜県地域森林監理士による市町村の支援（森林整備事業地の検討）

森林教育プログラムの実施

市町村の体制の支援をはじめ、人材育成・担い手対策、普及啓発等の施策を横断的に実施することで、手入れの行き届いていない森林の解消に向けた市町村による森林経営管理の取組みが進みました。

令和5年度の主な実績	
森林所有者への意向調査	3,732ha（24市町村）
経営管理権集積計画の策定	222ha（6市）
市町村が主体となり実施した間伐	642ha
新規就業者の確保	74名

岐阜県における森林環境譲与税の使途は、インターネットで公表しています。詳しい事業内容や事業実績については、県ホームページをご覧ください。
（県HP「森林環境税･森林環境譲与税」:
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/104589.html）

●お問い合わせは TEL 058-272-1111（内線4348）森林活用推進課森林吸収源対策室森林吸収源対策係まで

2025年農林業センサスにご協力ください

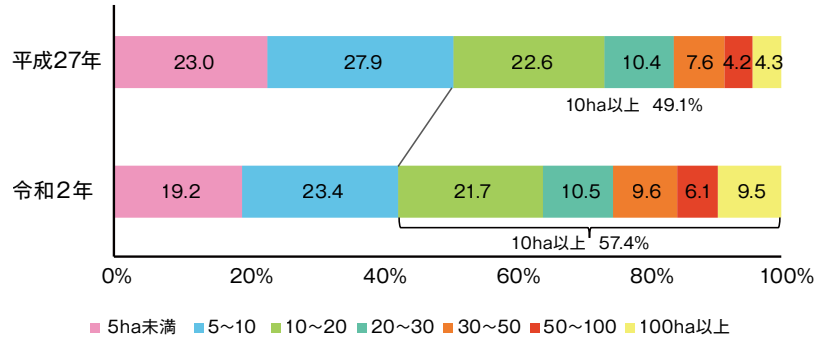
農林水産省では、令和７年２月１日現在で「２０２５年農林業センサス」を実施します。

この調査は、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市町村はもちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。

令和６年１２月中旬頃から順に、調査員が農林業を営んでいる皆様のところに訪問して調査票への記入をお願いしますので、ご協力をお願いします。

農林業センサス調査結果（岐阜県）

保有山林面積規模別林業経営体数の構成割合



令和２年の保有山林面積規模別林業経営体数の構成割合は、10ha以上の林業経営体が57.4%を占め、５年前と比べて8.3ポイント上昇しています。

調査結果の活用事例

- 食料・農業・農村基本計画
- 森林・林業基本計画
- 地方交付税の算定の基礎資料
- 各種統計調査の母集団名簿

あなたの回答が農業・林業の未来につながります。
スマートフォンやパソコンからインターネット回答もできます。

森林の土地を取得したときは 市町村への届出が必要です！

新たに森林の土地を取得したときは、森林法の定めにより届出が必要です。注）立木のみを取得した場合は、届出は不要です。

1 届出の対象となる森林は？

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林であり、その区域は岐阜県HP「ぎふ ふぉれナビ」（https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html）で確認することができます。

2 なぜ届出が必要？

行政が森林所有者に対して森林の整備等に関する助言をしたり、事業体が森林所有者に働きかけて間伐等の整備を行う森林を集約化して効率を上げたりするために、森林所有者を把握することが重要であるからです。

3 どのような場合に届出が必要？

個人か法人かによらず、売買、相続、贈与等で新たに森林の土地を取得した場合に必要です。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を行った場合は、森林の土地の所有者届出は不要です。

4 いつ、どこへ届出を出すの？

森林所有者となった日から９０日以内に、取得した森林のある市町村長に届出書を提出します。

5 どのような届出書を提出するの？

「森林の土地の所有者届出書」に次の書類を添付して提出してください。

添付書類　①取得した森林の位置を示す図面（任意の図面に大まかな位置を記入）

②取得した森林の登記事項証明書、売買契約書の写しなど権利を取得したことがわかる書類

●届出書の様式など詳しくは、林野庁のホームページ（「森林の土地の所有者届出制度」で検索）をご覧ください。

6 もし、届出を出さないと？

届出をしない、または虚偽の届出をしたときは、10万円以下の過料が科されることがあります。

【林政課　森林計画係】　●お問い合わせは、市町村林務担当課または県庁林政課森林計画係（TEL 058-272-8471）まで

山の歳時記 232
YAMA NO SAIJIKI

木馬（きんま）Ⅱ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「ギィギィー！」山積みされた丸太で重くなった木馬が盤木の上をゆっくり軋みながら木馬道を下っていきました。木馬の滑りが悪くなると油壷に入れた菜種油を、木馬道の盤木につけて下って行きました。

河合町の中吉正治さんのお陰で、木馬の名手であった佐々木弘美さん、藤田哲夫さん、鈴木義村さん、山口智さんが再現に力を貸して下さいました。四人が若く活躍されたころは、林業の歴史上でも最も金儲けができた「伐れば売れる」時代でしたが、木馬曳きは身軽で足腰が強く、とっさの判断力に優れた機転の利く者でなければ務まらない危険な仕事でした。

河合の木馬はカシ材2本に楔穴を彫って橇板にし、それを先すぼまり尻開きのハの字に置いて、ミズナラ材の横棒5本を橇板の楔穴に通して留めます。次に幅広の2本の横板を上に載せ、丸太を積み込みながら鉄の鋏（かすがい）で留め、これを基準に順次丸太を積み上げながら固定し、適当な高さにハンドル代わりになる梶棒を積んでおいて、木馬を舵取りするのに利用します。

運んだ丸太を荷下ろし場で降ろすと、次は木馬を山の上に担ぎ上げるのですが、木馬は橇部分や横棒、横板、台材、鉄鋏40～50丁を加えると、丸太を載せなくても60kgほどの重量になります。その木馬の橇部分に頭を入れて、橇台を両肩に担いで登ること、1日に1～3回繰り返すのです。

最後に丸太を積む「積み土場」で木馬に丸太を積み込み、明日の準備が完了したら山小屋での夕食や酒盛りが待っているのです。

この作業は「木馬曳き（きんまひき）」と特別な名称で呼ばれ、1人で約1トンを超える丸太を運ぶ危険な作業でしたが、高い賃金が魅力なため憧れの仕事であったそうです。約8㎞の木馬道を太い丸太10本（材積で4㎥）曳き出した伝説の人までいたそうです。雪が降りはじめる頃には木馬作業は終わり、晩冬には「木馬曳き」が丸太を手橇で運ぶ「出し子」に変身しました。

普通の作業員の日当が50銭くらいだった昭和7年、木馬曳きは5～7円を稼ぎ出す高給取りで、1日を終えると1升1円20銭した酒を飲み干してしまうほどだったそうです。人によっては木馬曳きで儲けた賃金の大半を、飲めや歌えのどんちゃん騒ぎで、すっからかんになり家に帰れなかったそうです。

木馬道は1度設置すれば長年利用でき、盤木に耐久性があるクリ材を使えば、10年以上も使用可能でした。林道や作業道のように山の斜面を崩すこともなく、必要な時に必要な量だけ搬出した木馬は持続可能な技術だったのです。

木馬の橇台を担ぎ上げる出し子の方々

森林と人を活かす知恵 143

『木表』と『木裏』の心がけ

岐阜県立森林文化アカデミー　講師●石原　亘

学生さんに、「板材を使用するときに『木表』と『木裏』のどちらを表面側にすればよいのか」と聞かれたことがあります。この誌面ではその回答について考えてみたいと思います。

●ウッドデッキの例

降雨後に学校内のウッドデッキに目をやると、所々に水溜まりができています。これは、デッキに使用した板材が乾燥収縮によって凹状に変形するために生じるものです。こうした用途に板材を用いる場合、変形時の挙動を考えれば表面を『木裏』側にして施工した方が良いでしょう（図1）。

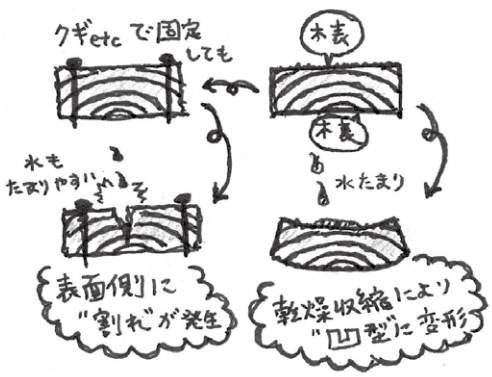


図1　ウッドデッキにおいて表面が『木表』だと…

●集成材の例

昨今では、構造用集成材を、いわゆる「内装現し仕上げ」として用いる例も多くみられます。集成材は心持ちの製材に比べて乾燥による割れが生じにくいとされているのですが、冬季に暖房を稼働させた場合、室内の相対湿度が著しく低下するため、しばしば乾燥による割れが生じてしまいます。こうした割れは、ラミナの積層方法によって発生状況が異なることが分かってきています。具体的には、最外層の表面を『木裏』側にし、各ラミナの『木裏』同士の接着を避けることで割れを抑えることができます。実際に、集成材の欧州規格などでは図2に示すような積層方法が規定されています。

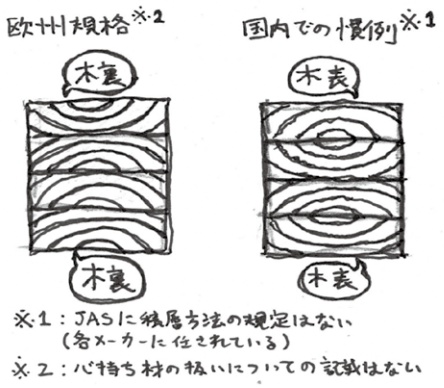


図2　欧州規格における集成材の積層方法

●『木裏』は万能か

では、すべての場面において『木裏』を表面にした方がいいかというと、そうは言いきれません。美観の点から言えば、髄付近から得られた板材の木裏側には「流れ節」が多く現れてしまいます。また、カラマツのような早晩材密度差が大きい樹種では「目離れ」が生じやすくなり（図3）、使用場所によっては注意が必要です（もっとも、「目離れ」の生じやすさは、プレーナー掛けにおける刃物の摩耗程度にも影響を受けるとされています）。

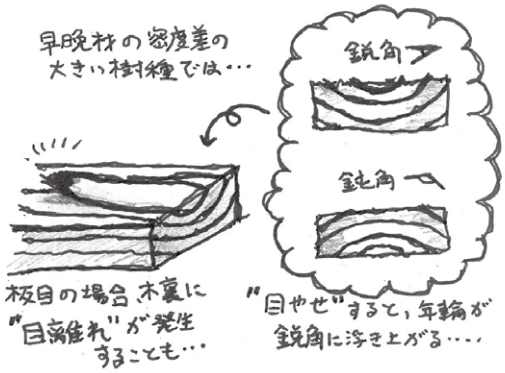


図3　『木裏』の注意点

●表と裏、両面の心がけ

実のところ、「『木表』と『木裏』のどちらを表面側にすればよいのか」という問いに対して、決定的な回答はありません。使用環境、目的、樹種によってその答えが変わるからです。かの加藤清正は「表と裏、両面の心がけ、どれもおろそかにしてはならぬ」という名言を残しています。もちろん、これは木材を想定して残した言葉ではないでしょうが、それぞれの性質についてよく理解して、使い分けをしていくことが重要でしょう。

●詳しい内容を知りたい方は　TEL (0575) 35-2525　県立森林文化アカデミー まで

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館では、「ぎふ木育」の実践者を対象に、森や木に関する知識を深めていただくための「ぎふ木育実践者スキルアップ研修」を年３回程度開催しています。

今回は令和６年10月16日に行われた第２回ぎふ木育実践者スキルアップ研修の様子を紹介します。

講師は岐阜県立森林文化アカデミーの柳沢教授。「木のおもちゃの樹木をみつけよう」と題し、木のおもちゃに使われている代表的な樹木に対する知識を深め、樹木の見分け方を学んでいただきました。

森の中を歩き、様々な樹木に触れ観察する

まずは、ぎふ木遊館でもおなじみの、16種類の岐阜県産の木で作られたおもちゃ「まあるいつみきmini」を観察してこれから学ぶ樹木を意識していただいた後、柳沢先生から、森で生きていた樹木が様々な木材として使われるまでの話や樹木の葉っぱの性質などの話を伺って、知識を蓄えながら野外で樹木を観察するモチベーションを高めました。

その後、森林文化アカデミー内で樹木を観察し、樹木標本に使用する枝葉を採取しました。さすがは森林文化アカデミー、いろいろな種類の樹木が植えられており、2時間足らずでまあるいつみきminiに使われている樹木を8種類、それ以外の樹木を6種類も解説していただき、五感を使って観察することができました！

講義のようす

木のおもちゃに使われる樹木の解説

五感を使って樹木に触れる受講者

自分で採取した木の名前を調べ、長く付き合える標本にする

午後は、採取した枝葉を使い、図鑑を見て樹木の種類を見分ける樹木同定の実習と、樹木標本の作成を行いました。

樹木同定の実習では、落葉樹か常緑樹か、葉っぱが枝に対についているか交互についているか、葉っぱの縁にギザギザ（鋸歯）があるかなどの特徴から、樹木の種類の候補を絞り込んでいきます。葉っぱによってはとても難易度が高く、悩んでいた受講者もいましたが、樹木の名前が分かった瞬間は悩んだ分とても喜んでいました。

樹木標本の作成では、樹木の名前を整理しながら、綺麗な標本になるように新聞紙に挟んでいきました。初めての試みでしたが、フィールドで教わった樹木の名前や特徴を復習する機会にもなり、より樹木への親しみや理解が深まったように思いました。

受講者からは「木のおもちゃの樹木に実際に触れたり特徴を知ることで、木のおもちゃがさらに魅力的に感じるようになった」「図鑑からの調べ方を教わり、Web検索頼りだったのが一歩前進した」などの感想が寄せられ、ぎふ木育実践者としてのスキルアップを実感された方が多いようでした。

樹木同定の方法を学ぶ受講者

樹木標本の作成

集合写真

News! 天皇皇后両陛下が御視察されました

令和6年10月15日、地方事情を御視察のため、天皇皇后両陛下がぎふ木遊館にて「木育プログラム（第39回国民文化祭事業）」をご覧になりました。

当館では、木工室にて「どんぐりのキーホルダーづくり」と「ファーストスプーンづくり」を開催し、両陛下は、これから離乳食を始める子どものためにファーストスプーンを作る夫婦に、作業工程や子どもの様子などをお尋ねになりました。次に、木育ひろばにおいて親子が木のおもちゃや木製遊具で遊ぶ様子をご覧になり、ぎふの木のおもちゃ「つみぼぼ」を使ったリズム遊びの後で、つみぼぼを手に取り関心を寄せられていました。また、丸太トンネルの上に登ったお子さんに皇后陛下は「のぼれるの？すごいね」などとお声がけされました。

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称ｍｏｒｉｎｏｓ）で実施している森の体験出前型プログラムについてご紹介します！

＜森の出前体験　～高山西保育園～＞　伐採した木で思い出づくり

「近くの森での遊び方を知りたい」、「森はないけれども、自然遊びをしたい」などの想いを持った園や学校にmorinosのスタッフがお邪魔して実施する森の出前体験。今回ご紹介するのは、高山市名田町にある高山西保育園で実施した森の出前体験です。高山西保育園では10月頃に新しい遊具を導入するため、園庭にあるシダレザクラ、ケヤキ、グミの木を伐採する予定でした。そこで今回はmorinosスタッフが樹木の伐採をお手伝いし、伐採した木で園児たちの思い出づくりをすることにしました。

始めに伐採作業の安全を祈ることばを読み上げ、次に園児たちとお世話になった樹木に感謝と敬意を表してご挨拶をしました。次はいよいよ樹木の伐採です。２人の園児をスタッフがサポートしながら両手挽き鋸で伐り進めました。残りの園児たちは、樹木が倒れる方向を調整するためにロープで引っ張りました。園児たちの協力のおかげで、木はうまく倒れてくれました。伐採後に園児たちは切り株に集まって年輪を数えたり、匂いをかいだり、木の中で生活していたアリを観察したりしました。

伐採予定のシダレザクラ（左）、ケヤキ（中）、グミの木（右）

シダレザクラのまわりに塩をおく園児たち

スタッフが付き添って伐り進める

シダレザクラを引き倒す園児たち

木の円盤に自由にお絵描き

森の出番（morino de van）と記念撮影する園児たち

次はいよいよ木の思い出づくりです。まず、伐採された丸太から木の円盤を切り出します。円盤の匂いや触り心地を感じながら、園児たちは夏の思い出や好きな昆虫、キャラクターなどを描きました。また、シダレザクラ、ケヤキ、グミの葉っぱを見せると、園児たちは興味津々で見つめ、それぞれの葉っぱの形や匂い、肌触りの違いを教えてくれたり、葉っぱにお絵かきをして木の円盤とは異なる感触を楽しんだりしていました。

振り返りでは、園児たちは木を伐る爽快さや伐採した木の思い出づくりの楽しさを語ってくれました。園庭の3本の木は、園児たちの素敵な作品へと生まれ変わったのでした。

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ　https://morinos.net
YouTube　検索「morinosチャンネル」

開館時間　10:00～16:00
定休日　毎週火･水曜日

morinosHP
YouTube「morinosチャンネル」

シリーズ

ぎふ木育全県展開 2

～恵那地域～

県では、「ぎふ木育」を全県展開するため、10箇所の農林事務所ごとに、地域で活動する木育関係者の交流会や、行政と意見交換する連絡会議を開催しています。その開催状況や、地域でぎふ木育を進めるキーパーソンを今号からシリーズで紹介していきます。初回は恵那地域です。

交流会・連絡会議を開催

恵那市には「えーな木育クラブ」、中津川市には「木育スタッフの会」という、それぞれ、市内の保育園等で木育活動を担っている団体があるため、両会のメンバーを中心に、ワールドカフェ形式で交流会を開催しました。活動するなかで普段から感じていた課題や悩みを共有するとともに、その解決法を前向きに考えました。

連絡会議では、「活動フィールド（森林）の確保」「若手の人材育成」「財源の確保（森林環境譲与税）」について、県・市の担当と議論しました。

恵那地域のキーパーソン

赤尾　友和さん（自然体験工房NENO代表）

Q どのような活動をしていらっしゃいますか？

ホームグラウンドは、中津川市と恵那市の境、標高約1000mに位置している根の上高原です。

自然と人がもっと親しくなれるような体験プログラムやガイドツアー、ワークショップなどを企画・運営しています。

学校や企業からの依頼を受け、森林学習の講師やCSR活動のコーディネートも行っています。

Q 活動するうえで大事にしていることは何ですか？

「自然は楽しいでしょ、大切なんだ」と言葉で言うのではなく、それを自ら、五感で感じとってもらえるように心がけています。

自然が先生であり、自分は学校の校務員のような存在として先生をサポートする立場だと思って活動しています。

Q 「ぎふ木育」を推進するうえで必要なことは何だと思いますか？

岐阜県には木育に適したフィールドも、木育に意欲的に取り組む人材もいます。この2つをマッチングできていないのが課題だと感じています。

今後、「ぎふ木育」を一層、推進していくには、ここをコーディネートできる人材の育成・活用が必要なのではないでしょうか。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8821 森林活用推進課 木育推進係まで

木の香る ぎふの施設 140

内装木質化

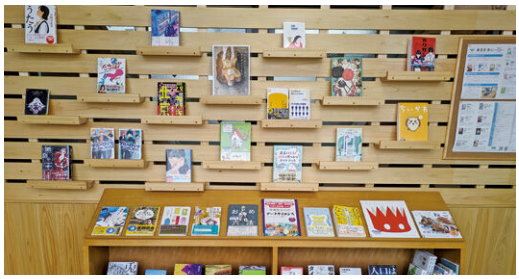
岐阜県立岐阜北高等学校図書館

岐阜市則武清水1841-11

施設全景

施設の概要

事業年度	令和5年度
事業主体	岐阜県
構造 延床面積	鉄筋コンクリート造 185㎡(木質化部分)
施設用途	学校図書館
木材使用量 使用樹種	10.55㎥ ヒノキ、クリ、スギ(県産材100%)
全体事業費	43,029千円（県有施設木質化等推進事業）
助 成 額	―
設 計 者	司設計株式会社
施工業者	株式会社ダイヤモンドホールディングス
工　　期	令和5年12月4日～令和6年3月25日



施設の経緯

昭和45年に建てられた校舎3階にある本校図書館は、老朽化に伴いPタイルが次々と剥がれ、壁も薄汚れ、ほとんどの書棚がスチール製であったため、図書館全体が暗い雰囲気でした。

今回の改修で、床、壁、天井に県産材をふんだんに使用し、木製の書棚、カウンター等を導入することにより、温かみのある明るい図書館となりました。レイアウトを見直したことにより、ゆとりができ、閲覧椅子も変更したため、読書、学習のために滞在したくなる心地よい空間となりました。

ここに注目！！

図書館の中ほどにある3本の柱が使い勝手を悪くしていましたが、展示棚や書棚、蔵書検索タブレット用のテーブルを柱付けにして上手く活用しました。

利用者の様子

生徒も先生も「え！？すごく綺麗になった」「広くなった？」と今までの図書館からの変化に驚き、「いい香り～」と喜んで利用しています。図書委員の生徒も“かっこいい！カウンター”の中で嬉しそうに働いています。

■問い合わせ先
岐阜県立岐阜北高等学校
TEL 058-231-6628

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

8

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

岐阜県里山林整備事業

事業の目的

人々の暮らしと密接に結びついている里山を整備することにより、地域住民の生活環境の保全を図るために行うものです。

支援の内容

市町村や林業事業体などが行う「集落に隣接した森林（生活保全林等）」の整備に係る経費を支援します。

事業の内容

①危険木の除去

公共施設や住宅などに倒れる危険性が高い「枯損木」や「傾いた木」等を伐採し、地域住民の生活環境の保全を図る事業です。

②バッファーゾーン（緩衝帯）の整備

野生動物による農作物被害や生活環境被害の軽減を図るために、農地や住宅地周辺の里山林の伐採等を行い、緩衝帯を整備する事業です。

事 業 実 績

令和５年度は２１の市町において、危険木の除去を５１箇所、バッファーゾーンの整備を３９箇所実施しました。

事業実施後に行ったアンケートでは、約97％の方から整備をして「よかった」「とてもよかった」との回答を得ており、地域のニーズに応えた整備を実施することができました。

特に、危険木の除去については、安心して生活できるようになったなどの声を多数いただきました。

＜危険木の除去＞

整備後

＜バッファーゾーン（緩衝帯）の整備＞

整備後

●詳しい内容を知りたい方は TEL058-272-8472　森林活用推進課 森林活用係まで

ヒノキ枝虫材を用いた接着重ね材の試作と強度性能

森林研究所●田中 健斗

はじめに

当所では、大径化するヒノキの用途拡大のため、強度性能に優れる丸太の外側から心去り正角（髄を含まない正方形の材）を製材し、貼り合わせた接着重ね材の開発と性能評価を行っています。

心去り正角を製材するということは、必然的に使用する丸太は大径となり、高強度ではありますが、コストを考慮すると採算を合わせるのが難しいのが現状です。

そこで、一般的に多く製造されているヒノキ心持ち柱角から出現する枝虫材を活用し、2本貼り合わせた接着重ね材について、曲げ強度試験を行いましたので、その結果を報告します。

心持ち正角接着重ね材の試作

心持ち正角接着重ね材の試作にあたり、飛騨地域の製材所から材料を提供いただきました。寸法は120㎜×120㎜×3,000㎜、105㎜×105㎜×3,000㎜で、各寸法24本を使用しました。この材料は、製材、乾燥後、モルダー加工、グレーディングまで行った機械等級構造用製材ですが、節付近の害虫の食害により、いわゆる「枝虫材」としてはねられたものでした。この材料を、強度等級が同じもの同士で組み合わせを決定し、接着剤をローラーで手塗り（写真1）し、コールドプレスで接着を行いました（写真2）。接着剤は集成材用に使用される水性高分子-イソシアネート接着剤を使用しました。接着の際、できるだけ最も虫食いが発生している面同士を貼り合わせました。完成した重ね材は120㎜×240㎜、105㎜×210㎜となり、それぞれ12体ずつ製造しました。

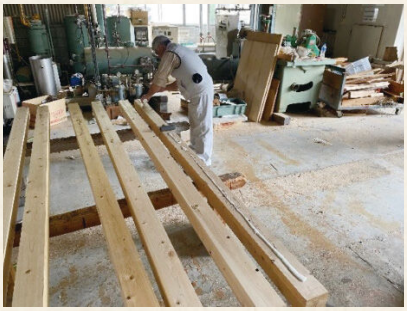


写真1　接着剤の塗布

写真2　コールドプレスにより圧締

試作した心持ち正角接着重ね材の曲げ強度試験

試作した接着重ね材は、実大曲げ強度試験機を用いて曲げ強度試験を実施しました。試験体は断面が縦長となるよう設置し、試験体が破壊するまで加力しました。試験の結果から、壊れにくさの指標である曲げ強さと、たわみにくさの指標である曲げヤング係数を算出しました。

試作した心持ち正角接着重ね材の曲げ強度試験結果

図1に試作した心持ち正角接着重ね材の曲げ強度試験の結果を示します。無垢製材品と同様、曲げヤング係数と曲げ強さの間には相関がみられ、曲げヤング係数が高いほど曲げ強さも高くなる傾向がみられました。

今回の試験では、多くの試験体が繊維方向と平行に破壊するせん断破壊と呼ばれる挙動を示しました。この破壊は試験標準条件（材高さの18倍、それぞれ3,780㎜、4,320㎜）に対して材長が短い場合や、材の内部割れなどの断面欠損から起きるとされています。

しかし、接着重ね材のJAS規格の基準の曲げ強さと曲げヤング係数は1体がわずかに満たさなかったのみで、その他の材はすべての材で基準を十分に満たしていたことから、材料の内部割れ等による強度低下の影響は小さいと考えられました。

なお、すべての材で接着層を起点として破壊が起きているものはなく、虫食いが発生している面同士を貼り合わせたことによる接着不良の事例は確認されませんでした。

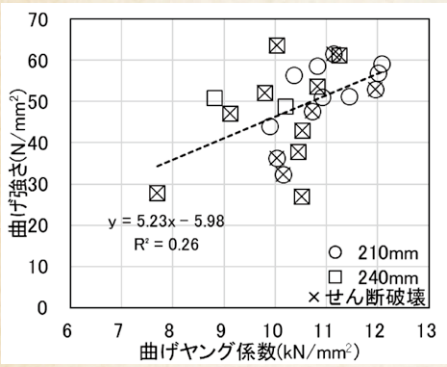


図1　曲げ強度試験の結果

おわりに

今回の試作品の曲げ試験の結果から、接着重ね材のJAS規格の基準を満たすものを製造することは可能であると考えられました。しかし、今回の試験では曲げ破壊した材料は少なく、曲げ強度性能を議論するには試験体数が不足していると考えられます。さらに詳細な検討を行うためには、曲げ破壊した試験体の強度データの蓄積を進める必要があります。

また、虫食い面同士を貼り合わせることにより、今まで欠点材としてはねられていた材に付加価値を生み出すことができる可能性が考えられました。大断面材需要への対応、欠点材の有効利用を見据え、今後も接着重ね材に関する課題に取り組んでまいります。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

可茂地域における普及活動について

■可茂農林事務所　林業課
林業普及指導員　大重 隆太郎

可茂農林事務所管内は、岐阜県中南部に位置し、2市7町1村の10市町村からなる地域で、森林面積は6万9百ヘクタール、そのうち5万8千8百ヘクタールが民有林であり、人工林率は56・4％です。

大きな特徴としては、北部は東濃桧の主産地でもある林業地域（七宗町、八百津町、白川町、東白川村）、南部は都市近郊森林地域（美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町、川辺町、御嵩町）とに分かれ、それぞれ異なる普及活動が必要となります。

●市町村職員を対象とした説明会等の開催

今年度当初に「森林経営管理制度、森林環境譲与税への取り組みに向けた市町村への支援」として、地域森林管理支援センター（以下、支援センター）とともに巡回指導、ヒアリングを実施して、それぞれの進捗状況、地域課題を把握しました。

当管内では市町村合併が進まなかったこともあり、森林・林業行政の専門職員が手薄又はいない状態なので、支援センターの支援がとても有効です。行政職員は定期的に人事異動がありますが、有資格者の相談員による継続的な支援は、林務担当職員に好評を得ています。

10月24日には、支援センターと合同で担当者会議を開催しました。

可茂農林事務所では、持続可能なシイタケ原木生産用の森林の確保及び計画的な里山林整備の推進を図るために、可茂地域広葉樹林整備指針を定めており、今回改めて紹介、説明をしました。

支援センターからは、巡回支援の結果と今後の取組や県内の課題検討結果などについて情報提供をいただき、最後に参加者間の情報交換を行いました。

●シイタケ原木林の整備促進

当管内の白川町（黒川、佐見地域）や川辺町鹿塩は原木シイタケ生産地であり、生産者は長野県及び飛騨地域よりシイタケ原木を入手しています。原木生産量の減少などにより、原木単価が高騰し、安定的な原木確保が課題となっており、最近は質の低下も顕著です。

川辺町の生産者は父親の代から、当地域ではあまり自生していない「クヌギ」に拘り、原木林造成に取り組んで来ました。近年は自伐林家型地域森林整備事業を活用し、誤伐を防ぐため、二度の下刈りを実施しています。

白川町佐見の生産者は自己所有のコナラ主体の天然生二次林を伐採して、その年の原木を確保し、自伐林家型地域森林整備事業を活用して、クヌギを植栽しました。さらに岐阜県森林研究所（以下、森林研究所）の試験地として提供し、資材のチューブ式とネット式及び忌避剤による防除法の比較検証を行っています。

クヌギ植栽地の状況（白川町佐見）

自生していたコナラの伐根からの萌芽も見られますが、シカ特有の枝葉をしごく感じの食害跡を確認しました。また森林研究所の調査に同行し、我々も忌避剤の散布を体験しました。

今年度、この隣接地でヒノキ人工林の主伐・再造林の計画があり、この森林所有者に働きかけ、クヌギ、コナラの原木林造成を実施することが決まり、森林研究所の試験地としての協力も得られました。この所有者はシイタケ生産者と懇意にしており、シイタケ原木不足の解消に理解があり、原木生産の適正伐期が20年であることも決め手となりました。

森林研究所調査に同行、コナラの萌芽枝にも忌避剤を散布

●広葉樹苗の入手先と植栽時期

今年の猛暑により白川町佐見の試験地のクヌギが枯れていると森林研究所から連絡があり、苗木の入手先を白川町森林組合に確認したところ、愛知県大口町の業者を通じて静岡県産の苗木であることが判明しました。広葉樹苗は林業種苗法の対象外であるためか、産地等の意識があまりなく、より安価な苗木を購入したようで、今年度の植栽は、森林研究所にも助言をもらい、気候条件が近い長野県松本市の生産者から入手するよう手配が出来ました。

特に広葉樹の植栽時期は、春植えが良いのですが、補助事業を活用するため、秋植えや枯損のリスクがある厳冬期になることもあります。

また、加茂山林種苗生産組合では、コナラのコンテナ苗生産に取り組んでおり、御嵩町有林で昨年秋に植栽したところ、順調に生育しています。ほぼ受注生産のため、普通苗に比べて高価格であることがネックですが、コンテナ苗の活用も検討すべきです。

御嵩町有林のコナラ植栽地

●最後に

当管内では北部と南部で目標とする森林づくりが異なります。また、市町村数も多く、財政規模や交付される森林環境譲与税も様々であるとともに、市町村が抱える森林の課題も様々です。

我々林業普及指導員は異動があり、得手不得手もあるため、今後も支援センターや森林研究所と連携して、地域の実情に合わせた多様性のある普及指導活動に努めたいと考えています。

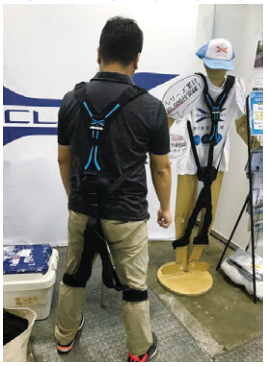
●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0574-25-3111内線(421)
可茂農林事務所まで

スマート林業通信 44

労働安全衛生の製品

今回は、9月に東京で開催された第4回次世代森林産業展と10月に福井県で開催された森林・林業・環境機械展示実演会から林業労働安全衛生関係で興味深い製品がありましたので、2点紹介します。

マッスルスーツ



マッスルスーツ

マッスルスーツは、東京理科大学発スタートアップ企業である株式会社イノフェスの製品です。

人工筋肉を使ったものなど4種類ありますが、その中の軽量タイプ（Soft-Power）は、実際に林業の現場でも使われているそうです。

このタイプは、重い荷物を軽くするというものではありませんが、立ったりしゃがんだりする際の腰への負担を35%軽減するというものです。

写真のようにベルトタイプのため暑いとか動きづらいということがなく、林内作業での腰への負担軽減が期待されるところです。

価格は、税込み59,400円です。

チェーンソー防護スパイク地下足袋

防護繊維を使ったスパイク地下足袋

急傾斜地の多い岐阜県の森林では、多くの森林技術者がスパイク地下足袋を愛用しています。

しかしながら、これまでチェーンソーによる切創防護機能を持ったものはありませんでした。

そうした中、この度、待望の商品が、和光商事株式会社から発売されました。

甲からすねにかけてアラミド繊維防護素材が配置されており、Class1相当の切創防護機能があるとのことです。

価格は、税込み15,400円です。

これまで、このコーナーでは、機械化による省力化、労働強度の軽減を取り上げてきましたが、こうしたものも森林技術者の負担軽減に大きく寄与するものです。

導入を検討してみてはいかがでしょうか。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミー
スマート林業推進係まで

国有林の現場から 98

ヘリコプター集材とミソスリ材

●ヘリコプター集材

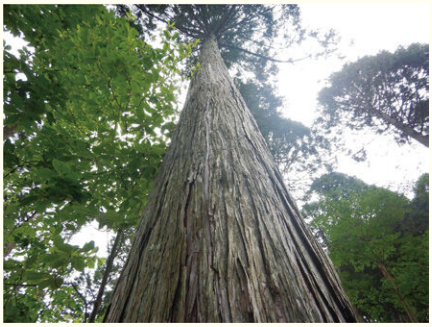
岐阜森林管理署では今年度の4月～7月にかけて当署としては9年ぶりとなるヘリコプター集材による生産事業を実施しました（ヘリコプター集材については2022年12月号（831号）の国有林の現場から「日本の文化を守るヘリコプター集材」（東濃森林管理署）に詳しく紹介されています）。

荷卸し土場へ下ろす様子

荷卸し土場へ向け集材される様子

●ミソスリ材について

事業地は、下呂市小坂町の落合国有林39ろ林小班ほか3小班で面積約27ha、植栽年度1895・1903年（明治28・36年）で林齢は122・131年生と当署の管内人工林では、赤沼田国有林の天保林188年生（2021年1月号（808号）で紹介）に次ぐ高齢級ヒノキ人工林になります。


ミソスリ谷にある
胸高直径70cmを超えるヒノキ

飛騨川支流の奥地、ミソスリ谷の沿線にある当事業地周辺は、以前より良質材の産地として知られ、小坂営林署時代にはヒノキ採種林として利用されている箇所もあり、当署の大島土場で行われていた素材公売や木材市場に出品される材については通称「ミソスリ材」と呼ばれてきました。

木材市場に出品されたミソスリ材
長級5m径級52cm(落札額36万円/㎥)

製材されたミソスリ材

当署の高齢級材PR
キャラクター「高太（こうた）くん」

今回の事業で搬出された材については、地元の下呂市をはじめ県内及び愛知県の木材市場に出品し、多くの買方様にご購入いただき好評を得ました。

施業履歴を見ると39ろ林小班では今回の間伐に至るまでに下刈・補植（1回）・除伐（4回）・枝打（4回）・つる切等、繰り返し保育作業が行われ、大切に育てられてきたことが分かります。

ミソスリ地域の間伐については令和4年度から始まった第六次国有林野施業実施計画（飛騨川森林計画区）においては、今回で完了となります。次回の施業は令和9年度以降になる見込みですが、先人たちが作りあげてきた貴重な木材資源を今後も大切に活用していきます。

（岐阜森林管理署）

～植栽年に起きた主な出来事～

1895年(明治28年)
- ベーブ・ルース誕生
- 日清講和条約(下関条約)調印

1903年(明治36年)
- 山手線開通(池袋-田端間)
- ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功

森林・林業関係イベントカレンダー（12月～1月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
12月11日㈬～ 12月13日㈮	**伐木等の業務（チェーンソー）に係る特別教育**	●講習時間：11日　学科　8:50～17:10 12日　学･実　8:50～12:00 13日　実技　8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	11日（学科）　12日（学･実） ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 13日（実技） ㈱木の国　土場（山県市椎倉203-1） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
1月15日㈬～ 1月16日㈭	**木材加工用機械作業主任者技能講習**	●講習時間：15日～16日 8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：17,600円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
1月22日㈬～ 1月23日㈭	**リスクアセスメント担当者安全衛生教育**	●講習時間：22日（林業）　9:00～16:30 23日（製造業）9:00～16:30 ●申　込：開催日の2週間前まで ●受講料：12,000円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195

コラム

最近の休日は、よく金華山に登っています。友人と一緒だったり、一人だったり。金華山は気軽に登ることができ、またコースも複数あるのでその時の気分で決めることができます。季節によって異なる林内、鳥のさえずり、会話を楽しみながら登っています。そして、山頂から見える景色は、遠くに見える山、川、平野部の建物がとても綺麗で、何度見ても飽きません。山頂で食べることができる団子や、下山後のランチも最高です。高い山に登るのも好きですが、さくっと登山も良いですね。これができるのが、岐阜の良さでもあるなぁと思います。

「森林のたより」編集委員　森林保全課　浅井　美玖

1月号予定

1月1日発行

- イベント情報
- 連載
  - ●山の歳時記（233）
- 地域の人
- 清流と森と親しむ
  - ●森林と人を活かす知恵（144）
- 木と親しむ
  - ●岐阜県の公共木造建築（141）
- 清流の国ぎふ森林・環境税
- 森林・林業技術
  - ●研究・普及コーナー
- 市況情報
- その他

木材市場

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円（1㎥当たり）

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1867回 岐阜共販所 11月12日	すぎ	3 m	16～18cm	14,600	—	→
		4 m	16～18cm	14,000	—	→
			20～22cm	14,500	—	→
			24～28cm	14,400	—	→
			30cm以上	13,000	22,700	→
		6 m	16～20cm	18,000	—	→
	ひのき	3 m	16～18cm	20,600	—	→
			20cm以上	18,400	22,000	→
		4 m	16～22cm	20,300	—	→
			24～28cm	18,700	—	→
			30cm以上	18,400	33,000	→
		6 m	16～22cm	—	—	→
第1462回 飛騨共販所 11月6日	すぎ	3 m	16～22cm	14,000	—	→
		4 m	24～28cm	14,400	—	→
			30cm以上	12,000	—	→
	ひのき	3 m	16～18cm	20,000	—	→
		4 m	20～22cm	19,000	—	→
			24～28cm	18,500	—	→
			30cm以上	18,500	—	→
		6 m	16～20cm	—	—	→
	ひめこ	4m	24～30cm	13,000	—	→
			30～38cm	11,000	21,000	→
		5m	40cm以上	—	—	→
	くり	4 m	24cm以上	15,000	37,300	→
第1796回 東濃共販所 第12回ぎふ優良材展 11月7日	すぎ	3 m	16～22cm	14,000	—	→
		4 m	24～28cm	14,000	—	→
			30cm以上元	15,000	110,000	→
	ひのき	3 m	16～22cm	20,000	—	→
			24～28cm	19,000	33,000	→
			30cm以上元	28,000	51,000	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	→
			24～28cm	19,000	38,000	→
			30cm以上元	28,000	210,000	→
		6 m	18～22cm	29,500	212,000	→
	まつ	4 m	22～28cm梁	—	—	→
			30cm以上元	11,000	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4m元木、尺上良材は入札多数であるが価格は保合。スギラミナ向け3m·4m材は保合。ヒノキ良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は保合。ヒノキ3m·4mの構造材も価格は保合で推移。合板向けは弱基調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。（岐阜）

ヒノキやスギ材は横ばいで推移。しかし、節材や目荒材等は価格が伸びない。広葉樹出材も多く良材は応札旺盛だが、節材等は横ばいで推移。高値はクリ2.1m×38cm@33,000円、クリ3m×34cm@31,300円、クリ4m×36cm@37,300円、サクラ2.1m×38cm@48,800円。（飛騨）

令和6年度　第12回ぎふ優良材展を開催。ヒノキは（50cm以上）の大径材、4m～8m造材に入札集中。役物良材は応札多数で活気。尺上、中目良材も地元工務店を中心に強気。3m柱向け（14cm～26cm）は、価格は保合。4m土台向け、中目材は価格は強保合で推移。スギは造作向け大径木（郡上·中濃産）に人気集中、高値で取引。中目、尺上、元木良材は、底堅く価格保合で推移。目荒等並材は価格も伸び悩み売りづらさは継続。構造材4m（24cm以上）は保合、同3mは弱含み。6m長柱向け（18cm～22cm）は各方面から要望があり造材をご検討下さい。合板向けは弱基調。ラミナ向けはスギ、ヒノキともに活発な動きあり。（東濃）

製品卸売標準価格（10月期）

単位：円

樹種	用途	寸法（mm） 長	巾	高	等級	m³当り価格	（本（枚）単価）	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	（ 2,249）	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	（ 662）	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	78,000	（ 3,440）	→
	柱	3000	120	120	特等	73,000	（ 3,154）	→
		6000	120	120	特等	150,000	（ 12,960）	→
Wウッド集成材	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	（ 3,000）	→
		3000	120	120	国産5層	98,000	（ 4,200）	→

※日刊木材新聞調べ（名古屋標準相場　全てKD材）

外材市況（10月期）

単位：100円（1㎥当たり）

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	396	→
	コースト（目荒）	414	→
米栂	ヘム（アラスカ産）	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場（径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場）

これってなあに？～木材用語～

浜問屋（はまとんや）

複式市場の問屋のこと。浜は、市場会社が問屋に貸す区画。問屋は、その浜（区画）に丸太もしくは製材品を出品・展示して販売する。

（参考）日刊木材新聞社　木材·建材用語辞典